

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201644		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟		
所在地	札幌市北区あいの里4条3丁目1-10		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0170201644-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の中に建ち、施設の近くには遊歩道や公園があり、リビングから見える防風林には野鳥も訪れ、四季折々の自然を身近に感じることができる。
お花見や夏祭り、敬老会等の行事に、ご家族に参加いただき、職員やご家族間の関係作りにも努めている。
利用者様の様子や行事等のご案内を記載した「あいの里ふぁみりあ便り」を毎月ご家族に郵送している。
地域に開かれた施設作りを目指し、小中学校の課外授業の積極的な受け入れや、ボランティア活動の受け入れを行い、地域交流に努めている。
法人内外の研修参加の機会を多く持ち、職員の人材育成とサービスの質の向上に努めている。
平成24年6月、施設内にAED(自動体外式除細動器)を設置し、迅速に救命処置ができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟」は札幌市郊外の新興住宅地に立地し、近くに防風林や遊歩道があり自然にも恵まれている。木材を使用した平屋造りの建物内は木のぬくもりを感じる事ができ、落ち着いた雰囲気である。共用空間の大きな窓や天窓から陽光が入り、広々として開放感がある。運営推進会議には町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、予防センター職員その他、家族の参加も多く活発な意見交換の場になり、議事録も詳細で充実している。災害対策は自主訓練も含めて避難訓練を1年に4回実施し、夜間を想定した訓練には町内会役員や近隣住民の参加が得られている。サービスの満足度を高めるため、今年度も項目を見直ししながら「家族アンケート」を実施し、意見に対して丁寧に対応しており、家族からの信頼度も高い。研修体制も充実しており、内外の研修で身体拘束禁止の内容を正しく理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。担当職員も参加してアセスメントを基に介護計画を作成し、介護計画を含むケアマネジメントは充実している。職員は利用者の立場になって考え、丁寧な言葉遣いと優しい対応で手厚いケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(1号棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームふぁみりあ施設理念に「社会的緩和(地域と共にあること)」を挙げ、地域密着型サービスとしての理念を共有している。施設独自の理念についても、全職員が共有して実践している。	施設理念の4項目の中に地域との関係性を盛り込み、ユニット会議や携帯用のカードで理念を確認し、職員は意識してケアを行っている。事業所独自の目標は、年度末に見直し内容を継続している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、七夕等の行事に参加している。「子供110番の家」に登録し、防犯に協力している。地域の方に週2回談話ボランティアとして訪問していただいたり、近隣の小学校の児童、生徒の総合的学習の受け入れ等、少しずつ広がっている。	小学校の総合的学習を継続して受け入れており、小学生の質問に利用者が答えたり、昔遊びを一緒にして過ごしている。ボランティア訪問による談話やマジック、各サークルの催しなど、家族から紹介もあり徐々に増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解につながるよう、近隣住民の方々の施設見学を検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設報告や意見、情報交換を行い、施設サービスの質の向上に生かすよう努めている。	2か月毎の会議に民生委員の参加があり、避難訓練後の会議には地域の消防団員も参加している。会議では防災等の備品の助言をいただいている。家族の参加は3～5名と多く、詳細な議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区のグループホーム会議などに参加している。更に市町村担当者と連絡等により協力関係を築くよう努める。	市や区との連携で、事務的なことは統括管理者が窓口になっている。管理者は区を訪問し、利用者の負担軽減から「おむつサービス制度」の利用が可能か担当者に相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルをつくり、常時職員が閲覧できる場所に設置している。また会議等で身体拘束廃止について周知している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を掲示する他、北海道認知症グループホーム協会発行の小冊子を手渡し、ユニット会議でも確認するなど、職員は項目の内容を正しく理解している。外部研修に参加した職員は、会議で報告し資料で共有している。「スピーチロック」を学び言葉遣いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料を配布、指導を行い、防止に努めている。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会が少なく、諸制度に関しての相談は主に統括管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に施設利用についての説明を十分に行い、疑問点は随時確認の上、契約書・重要事項説明書の説明時に最終確認をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や契約時、苦情受付の担当者、苦情解決体制(フローチャート)で説明している。利用者やご家族が意見・要望を直接、職員に伝えられるような環境を心がけている。平成22年度から年1回実施している「満足度アンケート」にて、ご家族よりご意見をいただき、会議にて周知、検討しサービスの向上に努めている。	毎月通信を発行し、個別の欄に利用者の写真と様子をお知らせし、家族の来訪時には意見を聞いている。家族アンケートは項目を見直して今年度も実施している。結果を会議で話し合い、内容によっては本部とも相談している。些細な意見をも苦情受付簿に記載して対応を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の「報告・連絡・相談」の徹底を心がけている。会議録や連絡帳の活用と、会議や業務中に意見を聞き実行できるように努めている。	ユニット会議では勉強会、カンファレンスなども行い、意見交換の場になっている。会議には統括管理者も参加し、意見を運営に反映させている。また個人面談で職員の勤務状況や希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括管理者が職員の職務状況や希望等の聞き取りを行っている。その他に1年1回、各職員が、職務内容や異動希望等を記入した「自己申告書」を法人本部に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の他、外部研修についても職員の状況に応じた研修に参加できるように努めている。平成22年度から職員のキャリアパスと人材育成を目的に6ヵ月間の有期実習型訓練に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ユニットごとに人選し外部研修への参加を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問による実態調査等で、ご本人と接する機会をできるだけ持ち、不安軽減につなげるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や自宅訪問の際に、困っていることや心配なこと、要望などを汲み取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの対象にならない相談などについては、特養や老健を紹介したり、他のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事活動などを行ったり、得意なことを活かしながら共に暮らし支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会の際に普段の様子をお伝えし、利用者の生活状況をご家族と共有できるように心がけている。また、その時々や季節や思い出を共有できるように、ご家族参加型の行事開催に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会時には、お部屋でくつろげるように心がけている。また、リビングで一緒にくつろげる家庭的な支援に努めている。	同じ職場だった友人たちが年に数回は来訪している。近所に住んでいた方は頻りに訪れている。その際に記念写真を撮っているが、来訪者にも喜ばれている。家族とお墓参りに行き、馴染みの美容室やお店に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者職員が交流できる談話の場を、常に心がけている。一人一人の繋がりを大切に支援している。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の関係も大切にして支援や相談に応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報を基に、日々の生活の中で思いを汲み取るように努力している。	職員は「ライフ ヒストリー表」の情報を確認したり、利用者に問いかけて会話や表情から思いを汲み取っている。「課題分析票」に情報を蓄積して介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りや日々の何気ない会話から情報を得るなど生活歴の把握などに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や連絡を活用し、日々の変化を把握にできるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスで検討している。ご本人・ご家族の意見も反映できるように努めている。	介護計画の見直しにケア担当職員も参加し、3か月毎に評価を行い、課題分析を基に介護計画を作成してカンファレンスに図っている。生活記録(生活アセスメントシート)は介護計画に連動して記載しているが、主に行動を中心とした記録になっており課題もある。	生活アセスメントシートに介護計画の目標に沿った変化なども記録し、次の見直しに繋がるような記録の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティングを基に情報を共有記録し、計画につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化するニーズを見逃さないようにし、個性を重視したサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との連携や、入居者のお話し相手として地域ボランティアに協力いただいている。災害時、地域住民の協力体制の確立に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前に家族、本人に選択していただいている。	かかりつけ医の受診は家族が同行し、事情によっては職員が代行して医療情報を伝えている。協力医療機関の内科・精神科、また歯科の定期的な往診や必要時に皮膚科の往診もある。医療情報は個人毎に記録し、経過を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、週1回の訪問看護師による健康管理や、日々のケアで生じる問題点等は都度相談し、早期解決できる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師や医療相談員などと連携し早期退院に努め、入院によるリスクの軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、終末期のあり方など話し合っている。	利用開始時に、重度化で医療行為を継続する場合は対応が難しいことを説明し、同意書を得ている。病状の変化時には、主治医の判断の下で関係者で方針を確認している。話し合いの内容を記録して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを基に、会議等で確認している。平成24年6月、施設内にAEDを設置。全職員が普通救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、日中・夜間想定を含め防火訓練を4回以上実施している。毎年1回は消防署員立会いの下、利用者ご家族、地域の消防団員、住民の方々に参加いただき訓練を実施している。更に地域住民との協力体制の確立に努めていきたい。	今年度は自主訓練を3回実施している。他に消防署の立会いで夜間を想定した避難訓練を実施し、町内会役員や近隣住民は誘導後の見守りで参加している。災害備蓄品類は一覧表にして保管しているが、地震などの訓練は今後の課題としている。	事業所内で地震などを想定したシミュレーションを行い、避難・誘導や一人ひとりの利用者毎の対応など、安全面の確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損なわないような対応を心がけている。羞恥心に配慮した声掛け等、接遇に関する検討や指導等に努めている。	丁寧な言葉を遣い、明るく優しい語調で言葉かけをしている。申し送りや記録をする時は、フロアの一角の目立たない場所で行うことでプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉やしぐさ、表情の変化等に気づき、利用者の思いを汲み取れるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にと心がけているが、入浴など決められた時間や日に対応せざるを得ないものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の行きつけの理容店を定期的に利用できる機会を作ったり、女性の場合はお化粧を勧めたり髪を染めたり等、利用者の要望に沿えるように努めている。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせ、食事の下ごしらえ、食器拭き等を一緒に行なっている。誕生日には好きな物を取り入れ個々の嗜好や味付けに配慮し、楽しく食べて頂けるようにしている。	利用者から煮物の味付けや調理方法を教えてもらうこともある。熱いものは熱く、冷たいものは冷たく食べることを大切にしている。食材の発注を止めて外食や出前を楽しむこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部に献立表と食材を発注している。食事量と水分量は「生活アセスメントシート記録」に記載し把握している。主治医に相談しながら栄養バランスに配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔に努め、義歯や口腔内の状況を確認している。週2回の訪問歯科に相談し、口腔内の状況を報告し、口腔ケアの指導をうけている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を心がけオムツの使用は極力減らし、トイレで排泄が出来るようにしている。入居者の排泄パターンに合わせ、随時声掛けと誘導を行っている。	介助が必要な利用者には、排泄チェック表で間隔を把握している。退院後、おむつを着用していたが徐々にトイレで排泄できるようになった利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量の確認、便通に良い飲み物や食事に配慮している。歩行運動等、運動の機会を多く持つようにしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は夜間を除き、曜日・時間に関係なく、いつでも入浴が出来る体制になっており、体調に合わせて最低週2回の入浴を支援している。	入浴する曜日や時間帯、お湯の温度を本人の希望に応じて調整している。浴室で一緒に歌を歌ったり、話をしながら入浴を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し、個々の状況に合わせて、ソファやベッドで休息がとれるように声掛けし、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬のリストを、常時確認ができるようにファイルし、職員に周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の要望に合わせて、裁縫・読書・カラオケ・楽器の演奏など楽しまれている。敬老会や誕生会の時には、楽器の演奏を発表する機会を支援している。			

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣の公園や遊歩道を散歩している。お花見や紅葉狩り、外食等の行事で外出している。また、ご家族と一緒に散歩や買い物等で外出されている。	夏は、玄関の前にベンチを置いて日光浴をしている。雪のある季節は、車を使って少人数でショッピングセンターや初詣に出かけ、閉じこもりにならないよう外出行事を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者については、財布の中身が紛失しないよう最善の注意をしている。外出レク等では、希望の品物を選び購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に対して、電話の取次ぎや、郵便物投函の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、平屋建てのため広々とし開放的である。共同ホール・廊下・リビングの壁には、季節感を取り入れた装飾や写真を貼り、居心地の良い空間作りを心がけている。	吹き抜けの天井、2つのユニットをつなぐ広い玄関ホール、大型のテレビとゆったりと座れるソファを置いた居間、3台の食卓テーブルを配置した食堂などは、住む者の気持ちを穏やかにさせる空間である。雑誌や書籍、ビデオ、CD、観葉植物などをおして生活感のある空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々にソファを置き、ゆったりと過ごすスペースを確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活をしていた時に使用していたタンス、テレビ、椅子等を居室に置かれ、住み慣れた環境の中で、安心した生活が送れるように、努めている。	トイレ、洗面所、クローゼットが設置されている居室は、大型のベッドを置いても十分な広さがある。所々、傷のついた机や筆筒は、人生の一部である大切なものであり、それらの家具を持ち込むことで本人が安らぐことのできる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の個々の状態を把握し、事故が起きて大きな怪我をしないように、手すりや安全バーの設置、ベッドの高さ、滑り止めテープの使用等で工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201644		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム あいの里ふあみりあ1号棟・2号棟		
所在地	札幌市北区あいの里4条3丁目1-10		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1号棟ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0170201644-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2号棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームふぁみりあ施設理念に「社会的緩和(地域と共にあること)」を挙げ、地域密着型サービスとしての理念を共有している。施設独自の理念についても、全職員が共有して実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、七夕等の行事に参加している。「子供110番の家」に登録し、防犯に協力している。地域の方に週2回談話ボランティアとして訪問していただいたり、近隣の小学校の児童、生徒の総合的学習の受け入れ等、少しずつ広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小学校の課外授業訪問時に、認知症高齢者との関わり方を課題にした課外授業に協力している。また、認知症についての理解につながるよう、町内会を通じて近隣住民の方々の施設見学を検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設報告や、意見・情報交換を行い、施設サービスの質の向上に生かすよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区のグループホーム会議などに参加している。更に市町村担当者との連絡等により協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルを常時職員が閲覧できる場所に設置し、会議等でも身体拘束廃止について周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料を配布、指導を行い防止に努めている。また、日頃不適切なケアに当たる事項はないか考え、職員の気付きを大切にしている。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会が少なく、諸制度に関しての相談は主に統括管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に施設利用についての説明を十分に行い、疑問点は随時確認の上、契約書・重要事項説明書の説明時に最終確認をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や契約時、苦情受付の担当者、苦情解決体制(フローチャート)で説明している。利用者やご家族が意見・要望を直接、職員に伝えられるような環境を心がけている。平成22年度から年1回実施している「満足度アンケート」にて、ご家族よりご意見をいただき、会議にて周知、検討しサービスの向上に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の「報告・連絡・相談」の徹底を心がけている。会議録や連絡帳の活用と、会議や業務中に意見を聞き実行できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括管理者が職員の職務状況や希望等の聞き取りを行っている。その他に1年1回、各職員が、職務内容や異動希望等を記入した「自己申告書」を法人本部に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の他、外部研修についても職員の状況に応じた研修に参加できるように努めている。平成22年度から職員のキャリアパスと人材育成を目的に6ヵ月間の有期実習型訓練に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ユニットごとに人選し、法人内部研修または外部研修参加により同業者との交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問による実態調査等で、ご本人と接する機会をできるだけ持ち、不安軽減につなげるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や自宅訪問の際に、困っていることや心配なこと、要望などを汲み取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの対象にならない相談などについては、特養や老健を紹介したり、他のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴を大切に、一人ひとりの得意なことや好きなことで職員と共に活動することで、利用者様から教えて頂くことが沢山あり、暮らしを共にする者同士の関係が構築されている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会の際に普段の様子をお伝えし、利用者の生活状況をご家族と共有できるように心がけている。また、季節行事や個別での誕生祝いなど、思い出を共有できるように、ご家族参加型の行事開催に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会時には記念撮影をしてプレゼントしたり、お部屋やリビングでくつろげるように心がけている。また、ご家族に協力頂き、馴染みのお店を利用し続けられるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく交流できるように、日頃の茶話会の参加や、多数でのレクリエーション等の場面づくり、少数での談話の場を設け、一人ひとりの繋がりを大切に支援している。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、ご家族より他サービス利用や介助方法などの相談が寄せられ、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報を基に、日常の会話など生活の中で思いを汲み取り個別での支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りや、前サービスからの情報提供などを含め、生活歴の把握に努めている。また、日常の身上話なども一人ひとりを知る大切な時間と考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や連絡、情報交換など職員の気づきを活用し、日々の変化を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア担当者によるアセスメントを基に、定期的なカンファレンスで検討している。ご本人・ご家族の意見も反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日2回のミーティングでの情報交換や、日々の生活記録、各連絡ノートに情報を記録し情報共有に努め、介護計画に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を把握し、その時々で変化するニーズを見逃さないようにし、自分らしい生活ができるようにサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との連携や、入居者のお話し相手として地域ボランティアに協力いただいている。災害時、地域住民の協力体制の確立に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前に家族、本人に選択していただいている。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院との医療連携により、週1回の訪問看護師による健康管理や、日々のケアで生じる問題点等は都度相談し、早期解決できる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の訪問看護師や医療相談員などと連携し早期退院に努め、入院によるリスクの軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、終末期のあり方など話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講しているが、今年度は実施できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、日中・夜間想定を含め防火訓練を4回以上実施している。毎年1回は消防署員立会いの下、利用者ご家族、地域の消防団員、住民の方々に参加いただき訓練を実施している。更に地域住民との協力体制の確立に努めていきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場になって考え、尊厳を損なわないような対応を心がけている。羞恥心に配慮した声掛け等、接遇に関する検討や指導等に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、言葉やしぐさ、表情の変化等に気づき、利用者の思いを汲み取れるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にと心がけているが、入浴や外周散歩など決められた時間に対応せざるを得ないものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感を大切に、一人ひとりの好みや柄の把握や、男性は髭剃りの促し、女性の場合は髪飾りやお化粧を勧めたり、希望に添って髪を染めたりパーマをかけたり等、利用者の要望に沿えるように努めている。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付けのお手伝いをして頂き、共に食事を摂り、好みの食事量、硬さ、彩りを把握するなどしている。また、味付けや調理方法のアドバイスを頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者さんによるメニューにて栄養バランスを確保している。水分、食事量を記録し、一人ひとりに合った食事が出来るよう支援している。食事・水分摂取が難しい利用者には適正量取れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前等に声かけ、見守り、介助等、無理なくその人に合った支援をしている。また、週2回の訪問歯科診療で継続的なケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録、アセスメントし、トイレで排泄できるよう、一人ひとりの排泄サインの見極めや、随時の声かけ誘導、衣類の検討などを行い自立に向けた支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を基本に、水分、乳飲料などに気を配っている。また排ガス、排便状況を記録し経過観察をしている。医師との連携により下剤・坐剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前中が基本で、曜日に関係なく、いつでも入浴が出来る体制になっており、体調に合わせ最低週2回の入浴を支援している。また、身体状況によって時間を問わず入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いの休息がとれるような環境作りに取り組んでいる。また利用者の希望や体調に合わせ、一人ひとりのお起床・昼寝・就寝・時間を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬リストや、薬錠確認リストを作成し周知している。服薬後の心身、バイタルの観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かし、食器拭きや洗濯物たたみ、針仕事等のお手伝いや、パズルや塗り絵、体操等の趣味活動を行っている。季節ごとの行事や飾り付けに参加頂き楽しんで頂いている。		

グループホーム あいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や声掛けにて、近所や公園を散歩したり、大型ショッピングセンターへ買い物に行ったり、行事ではご家族参加で季節を感じられる景色を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。また、所望があればご家族との外食などにも職員が付き添い行動範囲が広がるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される場合は、ご家族との相談のもと自己管理できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、電話の取次ぎや郵便物作成・投函の支援を行って。また、個人で携帯電話を所有している利用者には、使用法方の支援なども行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、平屋建てで1・2号棟並列のため広々とし開放的である。共同ホール・廊下・リビングの壁には、季節感を取り入れた装飾や利用者が制作した作品を掲示し、各居室前にはそれぞれの写真を貼り、温もりがあり居心地の良い空間作り心がけている。夏は冷房、冬は床暖房が入り快適な温度を維持している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺・廊下・リビングなど数脚のソファの点在や、集合できる食卓、映画やビデオを鑑賞できる設備など思い思いの時間を過ごせる環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、自宅での家具の配置箇所の把握や、好みの装飾により住み慣れた環境での生活を意識した居室作りに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりや月間カレンダー、掛け時計を配置し時間分かるように配慮している。各居室前にネームプレートと個々の写真を設置し自室が分かるよう配慮している。要所に手摺を設置し、トイレには夜間用のフットライトを設置、自立動作の促進を行っている。また、自身で選択できるような衣服の収納や整理に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあいの里ふぁみりあ1号棟・2号棟

作成日：平成 26年 3月 19日

市町村受理日：平成 26年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	生活アセスメントに介護計画の目標に添った変化なども記録し、次の見直しに繋がるような記録の工夫に期待したい。	介護計画の目標に添った変化などの記録を行い、次の介護計画に繋がるように記憶していく。	行動記録ではなく、本人の表情や訴え等を記録していく。また、スタッフ会議で周知・検討を行う。	6ヶ月
2	35	事業所内で地震などを想定したシュミレーションを行い、避難、誘導や一人ひとりの利用者毎の対応など、安全面の確認を期待したい。	地震想定マニュアルを作成し、安全の確保に努める。	ふぁみりあ防災対策委員会で地震マニュアルを検討し、その後スタッフ会議で再検討し具体的なマニュアルを作成していく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。